

インターネットで情報収集 —信頼できるサイトの見分け方—

インターネットは情報を収集したり発信したりするのにとても便利です。しかしインターネット上には、信頼性に劣るサイト、間違っただけの情報を発信するサイト、他人を騙そうとするサイトもたくさん混在しているので注意が必要です。

01 授業の課題やレポート作成の際の情報収集

ブラウザからGoogleなどで検索をすると、Wikipedia（インターネット版百科事典）など情報を提供してくれるいくつかのサイトにいきつくでしょう。情報を収集するのにインターネットはとても便利な手段です。とくに、速報性という点ではインターネットに勝る媒体はないといってもいいでしょう。しかし一方で、インターネット上には誤った情報や信頼性に劣る情報も少なくありません。たとえば、インターネット版の百科事典ともいえるWikipediaにしても、間違いが発見されることが後を絶ちません。また、ソーシャルメディアが普及した現在では、口コミ情報など偏った情報や信頼性に劣る情報が氾濫しています。そのため、GoogleやYahoo!などの検索エンジンで調べた結果を安易に用いることはおすすめしません。

では、インターネット上の情報の信頼性を判断するには、どうしたらよいのでしょうか。これはなかなか難しい問題です。一つのコツは、できるだけ一次資料や出典を確認することです。たとえばWikipediaならば多くの項目に「参考文献」や「脚注」が記されています。これらの原本にあたって確認することで、信頼性を判断することができます。その際、前述したOPACを活用して、一次資料を図書館で入手し、そちらを参照すればよいのです。つまり、インターネットと図書館の双方をスマートに活用していくことこそが、効率的な文献探しへの近道ともいえます。

授業の課題やレポート作成で言葉の意味を調べたい場合には、下記で紹介しているような法政大学図書館のホームページからアクセスできる百科事典などのデータベースをまずは参考にしましょう。より詳しいデータを収集したい場合には、個人が開設しているブログのようなサイトではなく、できるだけオリジナルのデータを提供しているサイトを参考にしましょう。国の省庁、研究機関、学会、自治体、企業などの公式サイトは一般に信頼できるサイトといえます。

02 以下の①～⑥は法政大学図書館の公式サイトからアクセスできます

① オンラインで辞書や辞典を引く

日本大百科全書、日本国語大辞典、ランダムハウス英和大辞典、デジタル化学辞典といった百科事典や辞書、会社四季報や週刊エコノミストなどの情報・ニュースなど約70種にも及ぶコンテンツを利用できる「Japan Knowledge Lib」や、ブリタニカ国際大百科事典・ブリタニカ国際年鑑などが利用できる「Britannica Online Japan」などがあります。

2

オンラインで新聞記事を読む

朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞など国内主要紙の記事検索データベースのほか、London Times紙の1785年の創刊から2012年(毎年1年分追加)までの全紙面を検索できる「THE TIMES Digital Archive」、New York Times紙の1851年の創刊から最新号までを検索・閲覧できる「ProQuest」などのデータベースがあります。

3

書籍の検索

法政大学図書館OPACでは本学の図書館に所蔵されている資料が検索できます。本学以外の図書館の蔵書は、下記のデータベースで調べることができます。

サイニー

CiNii Books

全国の大学図書館(そのほか研究機関、一部の公立図書館も)が所蔵している学術図書、雑誌を横断検索できます。法政大学OPACの画面からも検索できますので適宜利用しましょう。

NDL Search

国立国会図書館などが所蔵する文献を検索することができます。日本国内の出版物は国立国会図書館に納めなければならないという「納本制度」があるので、国内で発行されているものについて、網羅的に調べることもできます。

bookplus

1926年より現在までに出版された本の情報、約96万件を検索できます。絶版書・非流通本なども多数収録しています。1986年以降の本には、要旨・目次情報、小説のあらすじも収録されています。2001年以降の本には、著者紹介情報も掲載されています。

i

オンライン・データベースを使ってみよう!

法政大学図書館の公式サイトトップページにある「オンライン・データベース」のコーナーには、学習や研究に役立つ情報がたくさん詰まっています。ぜひアクセスしてみましょう! ここではその中のいくつかを紹介しました。具体的な検索の方法については図書館員にたずねたり、ガイダンスに参加して確認してください。自分の研究のために、ぜひ積極的に利用しましょう!

《自宅から法政大学図書館のオンライン・データベースを利用するには》

オンライン・データベースは、大学内だけでなく、自宅のパソコン等、キャンパス外でも利用できます(一部例外あり)。その際、VPN接続をする必要があります。VPN接続サービスの詳細については、「法政大学全学ネットワークシステムユーザー支援webサイト」(<http://netsys.hosei.ac.jp/>)を確認してください。

4

雑誌掲載論文の検索

研究成果が発表されるのは図書ではありません。学会誌や紀要などの定期刊行物にも多くの論文が発表されています。どのような定期刊行物にどのような論文が掲載されているかについては、以下のデータベースで調べることができます。

サイニー

CiNii Articles

国内最大級の雑誌・論文記事データベースです。学術雑誌や研究紀要に掲載された論文が検索でき、論文によっては本文そのものを読むこともできます。

magazineplus

これも雑誌論文記事のデータベースですが、CiNii Articlesが学術文献を中心に収録しているのに対し、学術雑誌のみならず一般誌・業界誌や年報類、論文集まで幅広く収録しているのが特徴です。

J-DREAMⅢ

国内外の学術文献を検索できる日本最大級の科学技術文献データベースです。科学技術や医学・薬学関係の文献等を約7,000万件収録している他、海外文献に関しては日本語による要約文も掲載しています。

5

企業情報の検索

大学図書館のオンラインデータベースには企業情報等も豊富に収録されています。研究の資料としてももちろんですが、就職活動の際に気になる企業を調べてみるのも一つの手です。

日経テレコン21

企業名、本社所在地、資本金、従業員数などから企業の沿革や人事情報などを調べることができます。

東洋経済デジタル・コンテンツ・ライブラリー

「週刊東洋経済」「就職四季報」「会社四季報」などが検索・閲覧できます。

イーオーエル

eol

国内上場企業約4,000社の有価証券報告書や財務データを取得できるほか、アジアの上場企業約20,000社の概要を調べることができます。わかりやすいインターフェースなので、初心者でも簡単に操作することができます。

マージェント

MERGENT Online

世界の上場企業約38,500社の企業・財務情報やレポートを収録し、データをダウンロードできます。

6

文献管理ツール

「RefWorks」、 「EndNote」、 「Mendeley」などを使って、収集した文献情報を管理したり、参考文献リストを手早く作成したりすることができます。



法政大学図書館にない資料を手に入れるには

法政大学図書館のレファレンスカウンターを利用する

他大学等で所蔵している資料は、図書館間相互協力によって、レファレンスカウンターを通じ、図書のお借せや複写のサービスを受けることができます(有料)。直接、その図書館を訪問する場合は、紹介状を発行します(一部のサービスについてはOPACへログインすることでオンライン申込もできます)。

法政大学各図書館に購入希望を出す

図書を購入してほしい時には、開架・閉架各カウンターで依頼することができます。また、OPACへログインすることで、オンライン申込もできます。

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟図書館を利用する

法政大学図書館は山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムに加盟していますので、加盟図書館との相互サービスを受けることができます。加盟図書館を直接利用することが可能ですが、それぞれの図書館の利用方法をよく確認した上で利用しましょう。

国立国会図書館を利用する

「NDL ONLINE」で東京本館に所蔵されていることが確認できたら、直接、国立国会図書館に行くのも一つの方法です。満18歳以上なら誰でも利用できますが、利用の仕方に大学図書館や一般の図書館とは異なる点がありますので、注意してください。なお、国立国会図書館では個人への館外貸出は行っていません(制限はありますが、複写は可能です)。

COLUMN

インターネットの落とし穴

ここでは、学習のための情報収集以外のインターネット利用について考えてみましょう。

1. 就職活動におけるインターネット利用の注意点

「誰でも絶対に内定が取れる極秘マニュアル!」のようなものを数万円で売りつけ、就活に悩む学生を騙すことが目的のサイトも横行しています。検索順位、フォロー数とフォロワー数の比率、Facebookにおける「いいね」の数などSNSにおける評価も指標となりえますが、必ずしも正しいものではありません。自分で判断できない場合には大学のキャリアセンターに問い合わせて下さい。

2. 買い物(ネット通販)での利用の注意点

信頼できる通販サイトを判断する、ひとつの目安として、Webアドレス(URL)が必ずhttps://で始まっているか、安全性・プライバシー保護のための南京錠マークがあるかを確認する方法があります。この2点が確認できない場合には信頼できるサイトとは言えません。また特定商取引法で、事業者の名称、住所、電話番号、代表者等の氏名が明記されることが義務付けられています。連絡先メールアドレスが無料で取得できるもの(GmailやYahoo!メールなど)であることはほとんどありえません。また、クレジットカード番号などの個人情報の入力ではできるだけ避けるようにし、どうしても使用の必要性がある場合には、セキュリティー保護があるかどうか十分に注意しましょう。